



市民の手で市民活動を支える

特定非営利活動法人

宝塚NPOセンター

通信
No.68

2011.9

「私とNPO」

宮城県七ヶ宿町
教育委員会
社会教育主事

伊藤 貴子



東日本大震災から半年が経ちました。しかし、あの日のことは今でもはっきり覚えています。

震災の日、私は夫の介護のため宮城県内の病院にいました。6週間前、夫が脳出血で倒れ、左半身不随になっていたからです。

その時、病室はメリーゴーランドのように大きく長い間ゆれて、ロッカータンスの戸はバタバタと音を立てて何度も開き、棚に固定されていたテレビは今にも落ちそうでしたが、揺れの途中で切れてしまいました。なにが起こったのか、突然のことに、頭の中は真っ白になりましたが、地震の揺れが少し収まった時、「幼稚園にいる娘は!？」と不安で血の気が引く思いでした。病院は停電になり自家発電に切り替えられ、「この病院は耐震構造で倒壊の心配はありません」とアナウンスされましたが、揺れが続く中、その声は恐怖に震えていました。

外は雪がちらついていました。私は自家発電がいつまでもつか不安をかかえながら夫を病院に残し、15キロ離れた娘の幼稚園に向かいました。たどり着くのに2時間、その途中では、陥没、段差有り、マンホールは飛び出ている、町中 瓦や塀が崩れ落ち散乱していました。それから2日後、病院に夫を迎えに行きましたが、そこは救急車で搬送された患者しか入れない野戦病院と化しており、残念ながら夫を退院させることもできませんでした。

それからは電気・ガス・水道が止まったため給水車と食べ物をもとめる日々でした。そして娘が度重なる余震と大好きな父親への心配で様子がおかしくなってきたため、2級の身体障害手帳を持つ私は

他県への避難を決意し、娘と二人で山形県上山市に1泊しました。そこは電気もガスも普段どおりでしたが、町中は焼き場の臭いがしていました。名取市と姉妹都市の上山市は、浜に打ち上げられた300近くの遺体の焼却を引き受けていたのでした。しかし焼却炉は限界に達していました。数日前には日常があった人々が今焼かれている。山形は普通に暮らしているのに宮城には何が起こったのかとても切ない思いになりました。

その後新潟県の方がガソリンを手に入れやすいという理由から、雪の中、新潟空港を目指しました。空港到着10分後に出発予定だった飛行機にキャンセルが出て搭乗。伊丹空港に着き、次の日に叔母夫婦に連絡を取り、その2日後、娘を叔母夫婦に預け、強制退院させられた夫を迎えに宮城に戻りました。

病院では、医薬品は底をつき、医者ですら咳をしながら自分のための薬は無いといった状態になっていました。そして医師から近隣の県もこの状況だからなるべく遠くの町に行ったほうがいいこと、普段どおりに治療してくれる、日常がある町にいかなければ治療の効果は出づらいことなどの説明を受け、宛先のない紹介状をいただきました。

3連休明けに、宝塚市の病院に夫の入院が決まり、私たちも宝塚の市営住宅に避難民として入居が決まりました。お隣さんが、「困ったことがあったら何でも言ってほしい、朱肉やあて布（子ども入学準備）や裁縫道具はあるの？」と心配して来てくださいました。着替えでさえ満足に持ってくるのができなかった私たちでしたが、掃除機・電気カーペット・照明灯・冷蔵庫・洗濯機・電子レンジ・リサイクルの電化製品、鍋・皿・寝具・カーテンなど数多くの支援品をいただきました。とても有難くて涙がでました。その運び入れの時に宝塚NPOセンターやボランティアの方々とはじめてお会いし、人から人への支援を受けました。 つづく

次号に連載欄を設けますので、引き続きご高覧ください(事務局)

新しい事業がスタート!!

兵庫県から受託しました。

「地域づくり活動支援事業」 新しい公共支援事業スタート

平成22年11月、国において「新しい公共支援事業」の補正予算（87.5億円）が成立しました。兵庫県は、国からこの交付金を受けて、23年5月下旬に「新しい公共」の担い手となるNPO等の自立的活動を支援する「地域づくり活動支援事業」の募集を開始し、7月下旬からプレゼンテーションが行われ、8月末に採択団体が決定しました。宝塚NPOセンターも下記の3つの事業に応募し、無事採択されました。

(1)NPO等カフェ運営事業

「但馬 de 元気カフェ in 浜坂」

但馬の地域力を高めるための学習と語らいの場となる「出前カフェ」を新温泉町(浜坂地区)で開催

(2)NPO等人材育成事業

「非営利組織の地域づくり力強化事業」

但馬地域（豊岡市・新温泉町）で会計事務・情報発信などマネジメント力強化講座を開催

(3)NPO等イメージアップ作戦事業

「ひょうごコミュニティ基金 in 宝塚」推進事業

「ひょうごコミュニティ基金」(仮称)設立に向け、宝塚地域、川西地域、東播磨地域において、設立発起人集め、広報等を展開

カフェ事業については、9月16日に浜坂にある七釜温泉地区で第1回目のカフェを開催しました。兵庫県但馬地域には中間支援組織がないため、地域での活動・経営の相談、交流・情報入手等を行う場が少なく、今回の事業で「出前カフェ」を行うことによりNPO等の活動を支援することを目的としたものです。

七釜温泉は、住宅地の中に温泉が湧き出て49年目を迎えます。地域の中で共存共栄を図りたいというおかみの会の若おかみたちが参加されました。いろいろな意見が出され、希望の光が見えた気がすると、皆さんが明るい笑顔になられたのが印象的でした。



今後の活動については、ブログ等でもご紹介したいと思いますので、宝塚NPOセンターのホームページにも注目しておいてください。

「まちかど子育て相談員養成講座」開講

～兵庫県が養成するまちの子育て相談員～



9月7日(水)、県内から100名に及び参加希望者の中から44名の方にご参加いただき、無事開講しました。

最初に兵庫県少子対策本部より「兵庫の少子対策・子育て支援」についてのご説明をいただき、兵庫県下でいろいろな子育て支援事業をされていることが紹介されました。それでも、日本の子育てに関する予算は、フランスなどに比べるとはるかに少ないとのこと。高齢化社会の日本ではどうしても育児関連政策を重視する人が少なく、一方では子育て費用や雇用環境などへの不安から、若い人たちが子どもを持つことをためらう傾向が強いことがわかっています。少子対策に是非お金をつけて欲しいですね。

オリエンテーションでは、「偏愛マップ」で自己紹介をするというグループワークを行いました。「偏愛マップ」とは1枚の紙に自分の偏愛するもの(半端じゃなく好きなもの)を書いていくというものです。結構、共通する偏愛があったりして、話題も盛り上がりました。初対面の人たちとのコミュニケーションツールとして、お勧めです。



9月14日(水)に保護者理解「現代の親が抱える悩み」、26日(月)には「子どもの発達と健康管理」の講座をそれぞれ実施しました。11月26日まで合計13回(8日間)に亘る講座で、一定の条件を満たした講座修了者は、兵庫県知事より「まちかど子育て相談員」として認定、登録され、修了式は12月に行われる予定です。勉強以外にも今回の仲間たちとの出会いがそれぞれの活動の励みやヒントになればと思います。宝塚NPOセンターとしては、講座終了後もそれぞれの活動への協力や支援を続けていきたいと考えています。

東日本大震災支援活動

～第3回お茶っこカフェ『妙見山ピクニック』～



7月9日の土曜日、東日本大震災で関西に避難している家族たちの心を癒す集い「お茶っこカフェ」を、ケーブル駅近くのバーベキュー広場で開催しました。参加者は福島県や宮城県の被災者21人。また、世話役のボランティアとして学生さん、宝塚市民・行政関係者他21人がかけつけてくださり、総勢42人で賑やかな交流の場となりました。市民や学生の社会参加の場となっている「お茶っこカフェ」は、毎回多くのボランティアの参加があるのが大きな特徴です。

被災地の現状を考えると、遠くにいて何ができるのか無力感すら感じますが、こちらに来ている被災者の子どもたちの笑顔に出会うと、逆に力をもらえます。

お茶っこカフェは毎月1回開催しています。9月には福島から宝塚に避難して来たばかりと言う方も参加されました。やむなく帰郷される方やこちらでの永住を決意された方、また、これから避難して来られる方など、それぞれの理由と事情がありますが、その思いは私たちが感じている以上に多岐に亘り複雑です。これからも心のつながりを含め息長く支えていきたいとより一層思いを強くしました。



宝塚NPOネットワーク会議開催

～宝塚からできることを考えてみよう～

7月6日（水）、東日本大震災で被災された方や地域のために私たち何ができるか、個人では難しいこともみんなで力を合わせればできるはず…ということで、開催しました。

最初に関西アロマセラピスト・フォーラムの宮里文子さんの現地活動報告がありました。既に宝塚の避難家族に対して実施されていますが、被災地にも赴き人にやさしくふれるタッチケアを実施されています。からだに触れられることで緊張が解き放たれ、同時にカウンセリング効果も発揮できるため、被災者の心身に与える影響力と役割はすごいものがあると、我々も実際に体験して感じました。



ハンドマッサージを体験

また、現地での活動については、週末はボランティアがあふれ、被災者の取り合いのようになっているが平日は閑散。支援は必要な時に分散されないと意味がないと、実際に現地を見た感想を述べられました。続いて宝塚NPOセンターの宝塚市内での支援活動を紹介。当日参加の団体からは、支援活動はしたいが何をしてもよいかかわからずこれまで募金活動くらいしかできなかった、今日は何ができるのかと思いながら参加したとの声。皆さん、何かしたいという気持ちは強く、今回の情報交換で現地のことが少しわかり、ネットワークを組みながら各団体の持ち味を生かした支援を今後考えていくことで参加者の思いは一致しました。

光で結ぶ市民の“きずな”

8月23・24日の夜、武庫川左岸にゆらめいた幻想的な光、それが「**光の道しるべ**」。

この日のために武庫川左岸の4団体が5月から準備してきました。その光は愛の松原から小浜まで繋がっています。そして、24日はまた、その光が結ぶ2つの地域でお祭りがありました。ひとつは、宝塚NPOセンターも実行委員会のメンバーとしてかかわってきた**ソリオ宝塚「地藏盆」と「ふれあい夏まつり」**。踊りの練習をし



た甲斐があって盆踊りはバッチリ、大盛り上がり。大人から子供まで笑顔があふれる楽しいお祭りで、屋台も行列が続いていました。もうひとつは、「**小濱宿行灯と伝統行事**」。離れたところで開かれるイベントが地域の人たちがつくった光で繋がっているなんて、まさに、宝塚市が目指す「市民の力が輝く共生のまち宝塚」そのものという感じです。



第3回ひょうごアドプト★チャリティ・フェスタ

まちをきれいにするボランティア活動を応援する“ひょうごアドプト”。地域の自治会、ボランティア団体、学校、企業などさまざまな人たちの参加・協力のもとで行われています。わたしたちの憩いの場である武庫川河川敷左岸もひょうごアドプトの活動によって、日増しにきれいになってきています。そんな河川敷でチャリティ・フェスタを開催します。お楽しみイベント盛りだくさんですので、是非お出かけください。

日時：2011年11月5日(土) 11:00~15:00

場所：武庫川河川敷(宝塚大劇場・パウホール南側)

出展内容：フリーマーケット、ビンゴゲーム(豪華景品あり)、野菜販売、豚汁・カレー、ビールもあります。



小雨決行
雨天中止



ひょうごアドプト
HYOGO ADOPT

「NPO・コミュニティビジネスの日」相談日のご案内

「NPO・コミュニティビジネスを立ち上げたいけれど、何が 필요한だろう?」と考えておられるみなさんに、宝塚NPOセンター事務局のスタッフがお答えします。相談日以外でも個別にご質問・ご相談を承っています。ご希望の方は事前にお申込みをお願いします。(TEL:0797-85-7766 FAX:85-7799)今年度の相談日は以下の通りです。

●10月15日(土) ●12月15日(木) 2012年●1月17日(火) ●2月15日(水) ●3月15日(木)

注意!!

事業報告書等の提出を忘れていませんか?

NPO法人は、毎年事業年度終了後3か月以内に事業報告書等を県に提出しなければなりません。これは、ただ単に役所への報告ということではなく、「NPO法人から市民への情報公開」のためのものです。市民や地域団体とかわりながら活動するNPO法人にとって、非常に重要な意味を持っています。資産総額の変更登記なども毎年必要です。提出を怠ると罰金や法人認証が取り消されたりしますので、注意しましょう!

会員募集・継続のお願い

皆様の会費や寄付は活動資金として、ボランティアとして提供される知識や技術は活動の活力となっています。どうぞ一緒に会員としてNPO・NGOを支える活動にご参加くださいますようお願い申し上げます。

[正会員]個人会員 10,000円/団体会員(NPO・市民活動団体) 10,000円/法人会員30,000円/[準会員] 3,000円
銀行振込：三菱東京UFJ銀行 阪急宝塚出張所 普通預金3629422口座名義 特・宝塚NPOセンター
郵便振替：口座番号 00930-8-77117 口座名義 宝塚NPOセンター 郵便振替用紙をご利用下さい

ご支援ありがとうございます(順不同、敬称略 2011.9.23 現在)

新たに入会された皆さん 【団体会員】(特)介護コミュニティ咲咲館、(特)らぼーる 【個人準会員】須藤栄一
寄付をいただいた皆さん 鶴丸悌二、大野保子、喜田容子、吹曾幸雄、中山光子

「東日本大震災」募金のご報告とお礼



かねてから宝塚NPOセンターに設置しておりました募金箱を集計した結果、18,851円の募金がありました。9月15日に取り扱い窓口である宝塚市の「いきがい福祉課」に【東北地方太平洋沖地震義援金】として届けました。皆さまの善意が被災地の役に立てればと思います。ご協力ありがとうございました。募金箱は今後も設置しておりますので、引き続きご協力をお願いいたします。

9月に入っても夏が続いていましたが、一気に秋がやってきましたね。

最近、春と秋の季節が短くなってきているような気がしませんか?

なんだか昔とちょっと違うと感じるのは、地球温暖化のせいでしょうか、歳のせいでしょうか。

いずれにしても、天高く…爽やかな秋、長く楽しみたいです。(T.K)

特定非営利活動法人 宝塚NPOセンター

〒665-0845

宝塚市栄町 2-1-1 ソリオ 1-3F

Tel 0797-85-7766

Fax 専用 0797-85-7799

利用時間 9:00~18:00

休館日 日・月・祝日・年末年始

Email zukanpo@hnpo.net

URL http://hnpo.net

生きがいしごとサポートセンター阪神北

Tel 0797-87-4350

Fax 専用 0797-87-7799

Email cdc@hnpo.net

URL http://cdc.hnpo.net